北陽台だより 第265号

青、波陽台

令和2年10月31日 発行長崎県立長崎北陽台高等学校西彼杵郡長与町高田郷3672 TEL 095-883-6844 FAX 095-883-0776 発行責任者 西田哲也

秋に想うⅡ



校長 西田哲也

季節は秋。勉強やスポーツ、そして読書の秋であり、食欲の秋でもある。しかし、今年はいつもとは違う。長崎の風物詩である「おくんち」の奉納踊りでさえ中止となったコロナ禍の秋である。

この夏、本校で発生しましたクラスターに関しましては、生徒・保護者の皆様はもちろんのこと、 周囲や地域の方々にも多大なご迷惑とご心配をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。 また、同窓会や本校OBをはじめとする多くの方々から、消毒液や励ましの言葉など物心両面にわ たり多大なご支援・ご援助をいただき、感謝の念にたえません。本当にありがとうございました。

9月には体育大会を校内のみで実施し、3年生の校内行事の区切りとしました。短い、制約された準備期間でしたが、溌溂とした見事なパフォーマンスを披露する各班の情熱に感動しつつ、「やって良かったなー」としみじみと感じられた一日でした。3年生にとっては、これからが本番。焦ることなく、着実に日々努力を積み重ね自身の進路目標達成に向け突き進んでもらいたい。

1・2年生には、新人戦やコンクール等での活躍を大いに期待しています。先の選抜大会におけるテニス部女子の優勝、男子の準優勝、さらに県新人大会における陸上部の複数の個人優勝などは学校全体の弾みとなりました。また、ラグビー部は第100回の記念大会を迎える花園大会への出場権獲得に向け、着実に準備を進めているところです。11月15日(日)、決勝戦での彼らの勇姿と活躍を楽しみにしています。

司馬遷の史記の中に「人生一世の間は白駒の隙を過ぐ」という、人生の短さをたとえた言葉がある。確かに自身の歩みを振り返ってみても、長いようで短くも感じる。このような言葉はさまざまな解釈ができる。『短い人生なんだから、そんなに急ぐ必要はない』とか、あるいは『短い人生だからこそ、今決断して行動すべきである』とか…。それぞれの人が置かれた立場や状況、心情等によってその解釈は変わり、時々の判断や行動基準は違うものになるであろう。今この時、北陽台の生徒諸君らは、この言葉をどのように受け止め、どのように判断し行動するだろうか。その時々の人の判断や行動に絶対的な正解を求めることは難しいが、はっきりしていることは、あとで「後悔するか、しないか」である。

生徒諸君は、これから自分自身の人生を切り拓いていく。そして、今も、これからも、さまざまなことに遭遇する。その時々に、しっかりと考え、冷静に判断し、的確に行動できる知恵と勇気を身につけておかねばならない。君達の人生は、君達自身が創るのだから。

学年PTA 2・3年:10月2日(金) 1年:10月5日(月)

今年5月のPTA総会は新型コロナの影響で開催されず、書面決議が行われました。今回は密にならないように、各学年の時間帯をずらし、ソーシャル・ディスタンスを保ちながら、会を開催しました。内容は、3年生は受験について、2年生は修学旅行について、1年生は今後の学校生活についての話題が中心でした。この後、学級で学級懇談会が行われました。



防災避難訓練 10月15日(木)

長崎市消防局北消防署浜田出張所から4名の方に来校していただき、避難 訓練および消火訓練を行いました。今年も大雨による川の氾濫などの災害が日 本各地で起きています。生徒たちは、災害がいつどこで起こるか、わからない ので、万が一に備えて、訓練が大事だと痛感した時間となりました。



教育実習 10月8日(木)~21日(水)

10名の実習生が2週間の教育実習を行いました。まず、授業観察や教材研究を深めた後に、実際に授業を数時間行い、最後に研究授業を通して各教科の先生方から様々な指導を受けていました。この2週間の長崎北陽台高校での実習の経験が今後の大学生活や就職活動に活かされるものと思います。

2年生 大学の先生方による特別講義 10月26日(月)

今年は新型コロナの影響のため、2 年生は「総合的な探究の時間」に長崎大学の8名の先生方の様々な特別講義を、オンラインを通して受講しました。

【生徒の感想】

薬学部は薬剤師を目指す薬学科と創薬研究者を目指す薬科学科があることに驚いた。薬剤師・創薬研究者・医者の三者間で支えあい、患者の健康を守っていることを知り、薬学部の重要性を改めて感じた。また、アルツハイマーを含む認知症による社会的損失は発症を1年遅らせると1兆円も削減できるということにとても驚いた。薬学で社会に貢献するために身近な医療問題に関心を持ち、課題を見つけ解決への努力を続けていこうと思った。(2年男子)

I Tやソフトウェアなどの情報化社会で必要な分野という印象があった。それだけでなく、A I やプログラミング、機械、ロボットなども関係することがわかった。情報データ学部はデータサイエンスとイソフォメーションサイエンスを学ぶ学科があり、女性は16%を占めていて比較的多いようです。A I、I o Tを担う人材が減少しているので情報科学を学ぶ人材が必要になってくると思いました。(2年女子)







同窓会から新型コロナ感染症対策用品の贈呈 9月30日(水)



9月30日(水)、本校同窓会から会長の横田智宏様と西 ノ首雅司様が来校され、消毒液4リットルボトル7本及び ハンドソープ詰め替え用96個を、新型コロナ感染症対策 用品として贈呈していただきました。引き続き、登校時や 食事前の手指消毒、教室等の清掃及び消毒に取り組み、感 染防止に努めながら教育活動を行ってまいります。

人権教育講話 10月29日(木)

本年度は、中田 慶子 氏(NPO法人 DV防止ながさき理事長)を講師としてお招きし、『対等な関係をつくるために』という演題で人権教育講話(デートDV防止授業)を行いました。校内放送とプロジェクタを利用した講話でしたが、生徒たちはデートDV問題を認識し、人権問題として考える機会となりました。

各学年より

「教育実習期間を終えて」

1学年主任 下村かおり

今年度の教育実習も無事に終了しました。私が今回担当したのは、丁度北陽台に赴任した年に授業で関わった生徒で、事前の打ち合わせメールから本人の意気込みがとても伝わり、とても懐かしい気持ちで実習を迎えました。毎日の教育実習日誌に記される授業準備や生徒理解への奮闘ぶりから、高校卒業後に彼が過ごしてきた中身の濃い時間を感じ取ることができました。他の実習生の皆さんも、緊張しながらも自信に満ちた表情をしていたと思います。実際に身近な先輩から色々な話を聞く中で、「6年後、自分は何をしているだろう?」と、刺激を受けた42回生も多かったのではないでしょうか。なりたい自分像を思い浮かべながら、今後の高校生活を過ごしてほしいと思います。

「将来について考える」

2学年主任 守 慶直

10月は夢ナビプログラムによる講義ライブの視聴や大学の先生の特別講義など、一部ではありますが大学や学問について触れる機会があった1か月でした。講義を受けてみてどんな印象を持ちましたか。私も全部を見たわけではないですが、みなさんがパソコン室で見ていた講義を後ろから覗いてみると、興味深いものがたくさんあったように思います。すでにやりたいことが定まっている人もそうでない人も(定まっていない人は特に)こういったものを大切にし、自分の進路について改めて考え直す絶好の機会と捉え、取り組んでくれたでしょうか。将来のことについて今すぐ一つに決めることは難しいですよね。しかし、誰のものでもない、自分の人生です。大いに悩んで人生について真剣に考えてください。今回のような講義を学校で受ける機会は、今後はほとんどありません。教室にもいくつか掲示されているように、今年度はコロナの影響で、大学がオンラインで高校生向けの講座を実施しています。そういった機会を逃すことなく積極的に参加し、将来について考えましょう。

「学年末試験終了」

3学年主任 林 圭介

あっという間に、学年末試験も終了しました。教科によってはまだ教科書の内容を進めているところもあると思いますが、多くの教科が演習主体となり、いよいよ「共通テスト」に向けて最後の仕上げにかかろうとしています。 毎週末に大学別オープン模試も含めて、多数の模試が実施され、休みのない時期が続くわけですが、息を切らさずにそれぞれの試験の復習なども着実におこないながら、過ごしていきましょう。

この時期に焦りや不安は、誰もが感じていることと思われます。周りの仲間たちの学習に取り組む姿勢から、様々なことが感じ取れるのではないでしょうか。「受験は団体戦」とは、言い古された言葉ですが、やはり一人ではなかなか立ち向かえないものです。それぞれが周囲に配慮しながら、お互いに切磋琢磨できる環境を作り、頑張ってもらいたいと思います。

